

平成20年度埼玉県立図書館子ども読書支援関連事業報告

図書館と県民のつどい埼玉2008報告

平成20年11月1日(土)に、さいたま市民会館うらわと浦和コミュニティセンターで、「図書館と県民のつどい埼玉2008」が開催され、あわせて1,513名の方が参加されました。

午前の部の記念講演は、児童文学者の中川李枝子氏をお迎えし、「しあわせな時」と題してお話いただきました。

～中川李枝子氏の講演録から～

本を「読むしあわせ」と「読めるしあわせ」、その2つは私にとってたいへんしあわせです。

読書というのは、誰にも気を使わないで私だけの世界にひたる、あくまで個人の楽しみだと思います。本人が読みたい思いをもって本にぶつかっていく、他人がいても眼中になく自分の世界にはまりこんでしまう、実にしあわせな時だと思います。また、読書というのは自分と向き合う、自分を客観的にみるチャンスだと思います。物語の主人公と一体化して心の体験をともにする、その自分をもう一人の自分が見ているのです。これは、自分を解放することでもあります。悩みや迷いなど人生の苦しみを軽くしてくれるのではないかと。文字を読めない子どもでも、耳から聞くお話によっていろいろな目にあって喜びや悲しみを感じ、波乱万丈の経験をするのを味わえると思います。

この世に生まれてどんな人に出会うかどんな本に出会うかが人生の決め手になるのではないかと思います。いい人に出会って、いい本に出会って楽しい人生を送ってほしいと願っています。

本が好きとか嫌いとかは子どもにとって理屈ではないですね。誰かが本を読んでくれるというのは、うれしいことです。子どもの想像力やお母さんの想像力で物語が広がっていきます。小さい子どもでも子どもは賢いので、次はどうなるかとわくわくする話の方が好き。「本はいいものだ、幸せだ。」と子どもの中にインプットされれば、自分の力で本を見つけていく力が育つのに違いありません。大きくなって学校にいけば、又いろいろな本があって、子どもは順調に育っていくと思います。私は自分の生きる道を本のおかげで見つけたと思っています。

「子どもを本好きにしたかったらまわりに本を置いておきなさい。」「子どもに親が本を読んでいる姿を見せてやりなさい。」と言われますが、まさに私はそういう環境で育ったといえます。

どういふ本を選んで置いておくかということが図書館の質の目安になると思います。良い本を選んで子どものそばに置くことが大事です。たくさん読んだ中でこれという1冊に出会うということも読書の幸せではないでしょうか。

午後は4つの分科会(読み聞かせ講座等)や製本の実技、展示、本のリサイクル等が行われました。講演会等の詳しい内容は、埼玉県図書館協会のホームページをご覧ください。



編集後記 この春、ご家族の卒業や入学を迎えた方、ご自身が新たなスタートをした方もいらっしゃるのでは…。何かが新しく始まる気配を感じるとまわりも新鮮な気持ちになります。(！)

編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のホームページ 「子ども読書支援サービス」

<https://www.lib.pref.saitama.jp/>

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見 85-5

☎ 0480(21)2659(代) fax 0480(21)2791

Shien 第7号

子どもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)するそんな大きな願いをもったやさやかな情報誌です。

平成21年3月15日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

《目次》

私の願い 毎日おはなしが聞ける教室に.....	1
連載：おはなし・読み聞かせ実践講座	1
連載：子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介	2
新聞・雑誌クリッピング担当から.....	2
ブックリスト担当から.....	3
インターネットからの情報収集担当から.....	3
平成20年度埼玉県立図書館子ども読書支援関連事業報告 図書館と県民のつどい埼玉2008.....	4

私の願い 毎日おはなしが聞ける教室に

地域の学校で読み聞かせのボランティアを始めて8年。「子どもたちと本の世界をもっと近づけることができたら」と願って活動してきました。

その間「子ども読書年」があり、さまざまな場で「子どもにもっと本を！おはなしを！」と叫ばれるようになり、ボランティアたちによる教室での「読み聞かせ」や「読書タイム」などが、随分普及・定着したように見えます。

けれども最近痛感するのは、こうした活動がすべて「入り口」で止まってしまっているのではないかと。本当の意味で子どもたちを本やおはなしの世界に誘うのは、やはり先生たちでなくてはできないということです。長い物語を毎日、先生が少しずつ(例えば昼休みの10分でもいいのです)読んでくださる。それが子どもたちにとって、どんなに楽しみなことか。深く心に残ることか。先生なら今、自分のクラスにどんな本がぴったりか、一番よくわかるはず。手応えをびびり感じられるのも、先生方の特権でしょう。

忙しい先生たちには、酷なお願いかもしれません。でも本を読んであげることに、それだけの価値がある...そう信じ、実践して下さる先生がひとりでも増えて下さることを心から願っています！！

図書館ボランティア K



おはなし・読み聞かせ実践講座

このコーナーでは「おはなしボランティア指導者」の皆さんによる、おはなし会を行う上でのワンポイント・アドバイスをリレーでお届けします。



プログラム作りは、語り手の好みや持ち味を活かしつつ組み合わせを工夫する楽しい作業ですが、一方悩みどころでもあります。スタンスを確認し、選書眼を養い、仲間と学びあって、練習も重ねていざ本番。あれ？聞き手が疲れてる、何だか終わった気がしない、45分とうとう集中しなかった...など何か心残りな手応えを感じたら、プログラムを見直してみるのも良いのでは。もっとも子どもの反応を見て会の途中で臨機応変にお話や絵本を変更することもお互い良い時間を持つために必要ですが。

プログラム作りは進化します。経験や子どもの反応、作品研究、日々の積み重ねが勘を育て、見通しをつけられるようになります。

聞き手語り手ともに疲れない
豊かな作品のコンシェルジュ、至福の時間の
コーディネーターを目指そう。

以下私が心がけている点を紹介します。

1. 組み合わせの仕方：メインの話をもとに1つと短い話を1つか2つ。詩、手遊び、絵本他。(持ち話をメインの話か否か分類しておく)(学年別にメインを考えレパートリーにする)
2. 順番：導入の詩や絵本 → メインの話 → 手遊び → 柄の異なる話 → 絵本やおまけ(納得して終わるもの)
3. 似た話を一緒にしない/時間に余裕を持たせて組む。
4. 好みや聞くレベルの違いに対応するため詩に人形を用いたり、差し出し方に工夫をする。
5. 作品を手渡す手段の幅を広げ、一番良い方法で手渡す。



吉田源子

(おはなしボランティア指導者養成講座修了生)

この本だいすきの会

子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介

「この本だいすきの会」は、「いつでも、どこでも、だれでも、読み語りを！」を合い言葉に、小松崎先生を代表として、1982年に発足しました。

この会は、

1. 子どもと本の好きな人の会です。
2. 読みきかせをしている人、これからしようとしている人の会です。
3. だれでも入れる全国組織の会です。
4. 次の活動をしています。
研究会や集会 通信の発行
5. 入会を希望する人は、事務局に年会費を払って申し込むという入会方式です。
6. 3人以上で支部が作れます(詳しくはホームページを参照してください)。

現在、全国の会員は約1,000名、支部は96を数えます。毎年、夏と暮れ年2回の全国集会があり、会員はもちろんのこと、文学作家・画家・絵本作家・評論家・研究者・出版人などの方々と交流しています。

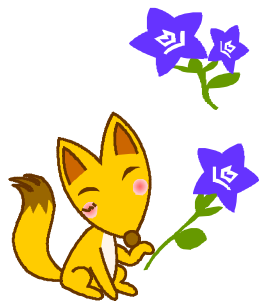
現在、埼玉県には、三郷・所沢入間・幸手・久喜・本庄・杉戸に支部があります。

私の所属する久喜支部の活動は、

1. 毎月1回例会を開き、小松崎先生に来ていただいて情報交換をしています。
2. 読みきかせ本のリストを作成しています。
例会はどなたでも参加できます。

久喜支部は現在23名、今年10周年目を迎えます。その記念行事として、今年5月に私たちが小学生になり、授業を受けます。先生はもちろん小松崎先生。内容は安房直子作『きつねの窓』です。参観者役も募集します。今から楽しみです。

松永由美子
(この本だいすきの会久喜支部代表)



Nice to meet you !

子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ
<http://www.lib.pref.saitama.jp/>
「子ども読書支援サービス」のページ

このコーナーでは私たち3グループの活動の一端をご紹介します

使えるブックリスト

ブックリスト担当から



今回、時間別ブックリストの第一弾として「3分以内の本リスト」が完成しました。読み聞かせのリスト本は多数出版されていて、名作・定番絵本は、ばっちり載っています(もちろん図書館にあります!)。そこで私たちは、出版年の新しい本や科学の本を積極的に入れしました。選書の際に、たくさん本に囲まれて、メンバーで読み合うのは、とても楽しい時間です。惜しくももれてしまった本には、高学年向けの『がいこつ』(谷川俊太郎詩)や、ちょっと読み方が難しそう『ぎゅっ』(ジ・エス・オルバ作・絵)がありました。もし、機会があったら、お試し下さい。

さて、リストでは「詩やことばあそび」「科学の本」「おはなしの本」「みんなで楽しめる本」にざっくりわけました。組み合わせる本とのバランスを見て、使って頂ければ嬉しいです。3分は短いですが、大事な時間ですよ! 続いて「5分以内の本リスト」を選定作業中です。お楽しみに!

プログラム例

低学年

『ハコちゃんのはこ』
(竹下文子作 前田マリ絵 岩崎書店)
『こねこのチョコレート』
(B.K.ウィルソン作 こくま社)
ネコつながりで、とてもかわいいお話です。

中学年

『アナンシと6びきのむすこ』
(紙芝居)
(ジエルト・マダ・モット作 ほるぷ出版)
『とさかにごはん』
(ス・キョウジ作 理論社)
紙芝居は長めですが独特の絵とお話に引きこまれます。

高学年

『やまのかいしゃ』
(ス・キョウジ作 かたやまけん絵 架空社)
『1・2・3 (ワン・ツー・スリー)』
(中川ひろたか・和田誠作 クレヨンハウス)
こどもたちの大好きなナンセンス絵本です。

メンバーで話していると、学校によって条件が違うことがよくわかります。読み聞かせが毎週あるところと、月に一回のところ。図書室に常駐やパートの司書がいるところといないところ。子どもたちは、みんな同じなのにナ...と思ってしまう。

大塚(子ども読書支援ボランティア)

きりぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

今回の紹介記事は本と時のつながりについてです。大人も子どもも、なぜか慌ただしい生活を送っていませんか。本を読む時間はありますか? ゆっくり本とすごすことができているでしょうか。

・朝日新聞(朝刊) 2008年12月16日(火曜日)

本が子どもに与える力 時間感覚延ばす働き

東京子ども図書館理事長の松岡享子さんが、本を贈るときのこつや、本の持つ力についてお話しています。松岡さんは、今の子どもを気の毒に思うのはとても刹那的なこと。今、身に起こっていることしか目に入らなくて、時のつながりの感覚がすごく短い子が多い。読み継がれてきた本には、その時間の感覚を延ばしてくれる働きがある。「昔からずーっとつながって今に至る」という時間の流れが感じられるんです。また、本の主人公の生き方に触れることでじぶんに降りかかったことを複眼的に見られるようになってきます。ケストナー、リンドグレーン、ファージョンたちの作品は子どもに豊かな時間を贈るでしょう。と結んでいます。

記事は埼玉県立図書館で閲覧できます。
新聞記事のクリッピング作業も地道に進んでおります。
ホームページ(平成18年1月~)更新中です。 井上(子ども読書支援ボランティア)



知っ得情報!



インターネットからの情報収集担当から

*** おすすめHP(ホームページ)の紹介 ***

みんなあつまれ! あそびの広場

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/asobinohiroba/index.html>

幼稚園や保育園で子どもたちが歌っている手遊びが紹介されています。お父さんお母さんが知らない新しい手遊び歌もあって子供と一緒に楽しめます。

おひさま文庫

<http://ohisama5.hp.infoseek.co.jp>

おはなし会の楽しみ方や開き方について書かれています。手遊び歌は「小さい子」「幼児」「小学生」のそれぞれで楽しめるものを紹介しています。

てあそび.COM

<http://teasobi.com/>

動画と音楽で手遊びを紹介。
オリジナルの絵かき歌のページもあります。

わらべ歌や手遊びのページは歌詞だけでなく動画や音楽も出てくるので、親子ですぐに楽しむことができます。多くのページが新しい手法を試みて、わらべ歌や手遊び歌をわかりやすく紹介してくれています。

坂本(子ども読書支援ボランティア)